

KYUTECH RESEARCH CUBE

未来を切り拓く創造の場

— 九州工業大学の特色ある研究 —

KYUTECH RESEARCH CUBE

未来を切り拓く創造の場

— 九州工業大学の特色ある研究 —



先端研究・社会連携本部
産学イノベーションセンター
〒804-8550
福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1
TEL: 093-884-3485

<https://www.ccr.kyutech.ac.jp/>

🔍 検索



九州工業大学 産学官連携推進会
KyuTechコラボについての詳細はこちら



2023年3月改訂



九工大のCUBEから 未来の技術が生まれる

九州工業大学で培われてきた様々な技術の結晶（CUBE）を育てるべく、学内に各種研究センターを設置し、部局や専門分野の枠をこえた研究者らによる研究領域の開拓を推進してきました。その中でも「先端基幹研究センター」は、本学の先端的な研究分野を核とし、大型外部資金の獲得や優秀な若手研究者の育成・輩出を通じて、世界的な研究拠点の形成を目指しています。さらに「重点プロジェクトセンター」「研究連携プロジェクトセンター」を配置し、本学の特色ある研究分野の強化や学外研究機関との連携を進めています。

学長
あいさつ



九州工業大学 学長
三谷 康範
Mitani Yasunori

多様な相互作用を通じた 価値創造に向けて

九州工業大学は、多様な知が集まり、それらが相互に影響し合い、新たな知を生み出すことができる機会と環境を作ることによって、本学の研究力を向上させ、イノベーション創出に貢献したいと考えています。そのために、学内の研究者が集まるセンター等の設置を推進するとともに、学外、海外の組織との連携を強化し、産学連携研究および国際共同研究を促進しています。

さらに本学では近年、教職員・学生・企業や地域住民の皆様・卒業生など多様なステークホルダーが集まり創造的な対話や協働を可能とする「未来思考キャンパス構想」の整備を進めています。多様な人と人、技術と技術が出会う本学のキャンパスは、未来を支える科学技術の種を育てる良い環境になると考えます。皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

理事・副学長
(研究・社会連携担当)
あいさつ



九州工業大学
理事・副学長(研究・社会連携担当)
先端研究・社会連携本部長
中藤 良久
Nakato Yoshihisa

産学官連携の 強力なネットワーク

九州工業大学は創設以来、産学官連携によって、多くの優れた研究成果を創出してまいりました。2022年4月の全学的な組織改編に伴い、先端研究・社会連携本部を立ち上げ、その下に産学イノベーションセンターを設置しました。先端的な研究活動、知財管理、産学官連携をシームレスに支援することで、さらなるイノベーションの創出を図ります。産業界をはじめとする国内外の多様な関係者との「対話」や「交わり」によるインタラクティブな関係を通して、産学官連携だけでなく、分野横断的な研究を推進してまいります。そのために、当センターでは多様なプロフェッショナル人材が配置され、組織対組織の連携構築から大学発スタートアップ創出まで支援する体制が整っております。皆様との対話や協働を通して本学に様々な知を集積し、さらなる研究・教育力の向上を目指してまいります。多くの皆様に本学との連携にご興味をお持ちいただき、この共創の場にご参加いただけますと幸いです。

ABOUT KYUTECH RESEARCH

研究フェーズに応じた各種研究センターを設置し、研究力の強化に取り組んでいます。

CUBE

先端基幹
研究センター

世界的な研究拠点の形成を目指す
本学を代表する
研究センター

▶ P04

重点
プロジェクト
センター

本学の特色ある
研究分野の機能
強化を推進する
研究センター

▶ P09

他の研究組織と連携
し、自立・持続性のある
研究体制を目指す
研究センター

▶ P13

研究連携
プロジェクト
センター

CONTENTS

先端基幹研究センター

- 01 革新的宇宙利用実証ラボラトリー 04
- 02 次世代パワーエレクトロニクス研究センター 05
- 03 環境エネルギー融合研究センター 06
- 04 ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター 07
- 05 IoTネットワークイノベーション実証研究センター 08

重点プロジェクトセンター

- 01 社会ロボット具現化センター 09
- 02 高信頼知的集積システム研究センター 10
- 03 ケアXDX*センター *XDX→Experience of Digital Transformation の略 11
- 04 次世代軟磁性材料社会実装推進センター 12

研究連携プロジェクトセンター

- 01 合成生物工学研究センター 13
- 02 イノベーションロボティクスセンター 14
- 03 グリーンマテリアル研究センター 15

OTHERS

九州工業大学の国際化への取り組み / 九州工業大学の共同研究講座等の紹介 16

ABOUT

九州工業大学の産学連携制度 17

CENTER
01

革新的宇宙利用実証ラボラトリー



超小型衛星を通じて、宇宙セクターに多様性をもたらし
人類の宇宙活動の発展に貢献する

超小型衛星 # 衛星環境試験 # 宇宙利活用拡大
情報通信技術 # 科学観測

About Research | 研究の目的

本ラボラトリーは、Lean Satellite（低価格・短納期で顧客やユーザーに衛星の作り出す価値を届けるために、リスクを許容しつつ無駄を最大限に排してシステムを作り、運用する）という新しい概念のもとに超小型衛星の利活用を促進するための研究開発を行います。こうして得られた知見や併設する超小型衛星試験センターの活用によって、多様な業種の宇宙参入への敷居を下げ、宇宙空間を利用した新たな付加価値の創出を目指します。



Director | 施設長



Please visit
our
website



北村 健太郎 教授

1998 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学専攻修士課程修了
2001 九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻博士後期課程修了
2001 九州大学大学院 博士(理学)
2002 九州大学宇宙環境研究センター 非常勤研究員
2005 (独)情報通信研究機構電磁波研究センター宇宙環境計測グループ 非常勤研究員
2007 徳山工業高等専門学校機械電気工学科 助教
2010 徳山工業高等専門学校機械電気工学科 准教授
2020 九州工業大学大学院工学研究科宇宙システム工学研究系 教授
2022 九州工業大学革新的宇宙利用実証ラボラトリー 施設長

世界1位 学術機関として 超小型衛星の打ち上げ数

2022年度までに27機の超小型衛星を打ち上げ、3度の宇宙開発利用大賞を受賞。
(経済産業大臣賞、外務大臣賞、宇宙航空研究開発機構理事長賞)

海外の学生・研究者の積極的な受け入れ

- 国連宇宙部と連携した留学生募集と教育プログラム
- 海外衛星の試験やロケット搭載時の安全審査への協力
- 海外機関向けの衛星環境試験の短期研修プログラムの実施
- インターン派遣・研究者交流

宇宙への新規参入を支援

BIRDSプログラム:

Joint Global Multi-Nation Birds

- 各国初の人工衛星実現に貢献
- ビジネス化を目指す企業の宇宙実証のための衛星開発の支援
- 外部研究機関の科学観測機器等をホステッドペイロードとして九工大衛星へ搭載
- 2022年12月、「きぼう」からBIRDS-5放出に成功!

Member | 研究体制

施設長	北村 健太郎 (工・宇宙システム工学研究系 教授) / 全体統括、超小型衛星統括
工学研究院	趙 孟佑 (宇宙システム工学研究系 教授) / 全体統括アドバイザー、国際連携、超小型衛星
	浅海 賢一 (基礎科学研究系 教授) / 衛星データ統合利用統括、衛星技術
	神谷 亨 (機械知能工学研究系 教授) / 画像データ解析、情報抽出
	豊田 和弘 (宇宙システム工学研究系 教授) / 超小型衛星(衛星推進)
	岩田 稔 (宇宙システム工学研究系 准教授) / 超小型衛星(宇宙実証Platform)
	花沢 明俊 (基礎科学研究系 准教授) / 画像データ解析、情報抽出
	野林 大起 (電気電子工学研究系 准教授) / 通信・ネットワーク利用
	寺本 万里子 (宇宙システム工学研究系 准教授) / 宇宙科学、衛星データ解析
	増井 博一 (宇宙システム工学研究系 助教) / 超小型衛星試験・開発
	佐野 圭 (宇宙システム工学研究系 助教) / 宇宙科学、衛星データ解析
情報工学研究院	徳永 旭将 (知能情報工学研究系 准教授) / 宇宙科学、画像データ解析、情報抽出、通信利用
	藤本 晶子 (知能情報工学研究系 准教授) / 宇宙科学、衛星データ解析
生命工学研究科	安川 真輔 (人間知能システム工学専攻 准教授) / 地上センサ、ビッグデータ



次世代パワーエレクトロニクス研究センター



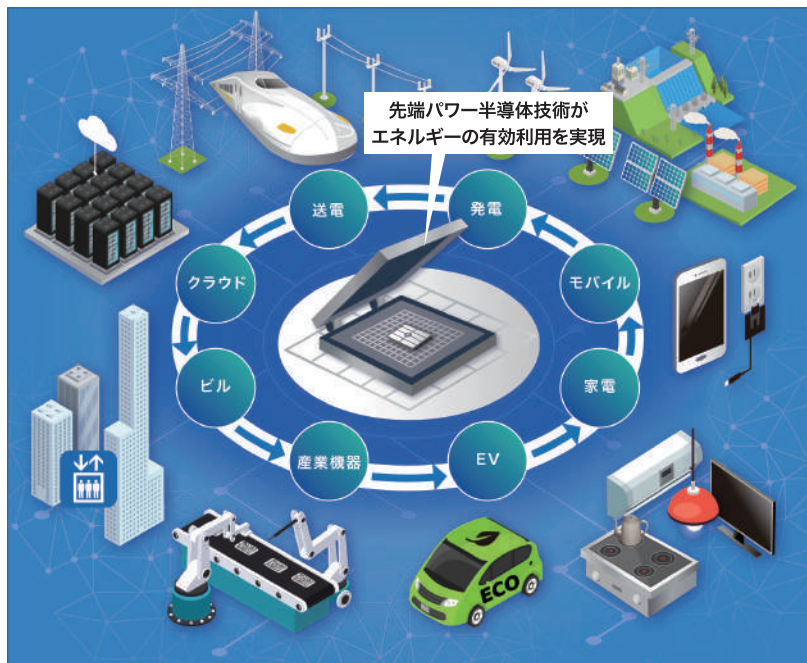
CO₂削減のキーテクノロジーとなる

パワーエレクトロニクスとパワー半導体の研究

About Research | 研究の目的

パワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究を、省エネルギーの推進、電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等による低炭素社会の実現に貢献するエレクトロニクス(環境エレクトロニクス)の観点から推進し、博士レベルの人材育成、知的財産権の創出、関係機関や企業との研究連携など、教育及び産業の振興に寄与しています。

- ・究極の省エネを目指した極限パワー半導体デバイスの開発
- ・超小型化を実現する集積化パワーエレクトロニクスの開発
- ・パワー半導体の故障原因に迫るリアルタイム・モニタリング技術の開発
- ・パワーエレクトロニクス制御とデジタルネットワークとの融合



Member | 研究体制

センター長	安部 征哉	(工・電気電子工学研究系 准教授)	ノスイッチング電源、パワーエレクトロニクス、電子回路
生命体工学研究科	大村 一郎	(生体機能応用工学専攻 教授)	ノパワー半導体、IGBT、パワーエレクトロニクス、信頼性
	嘉藤 徹	(生体機能応用工学専攻 客員教授)	ノ固体酸化物形燃料電池、上記電解水素製造システム
	渡邊 晃彦	(生体機能応用工学専攻 准教授)	ノダイヤモンド/パワー半導体、パワー半導体信頼性、薄膜・表面界面物性
工学研究院	松本 聡	(電気電子工学研究系 教授)	ノ集積パワーシステム、エネルギーハーベスティング
	長谷川 一徳	(電気電子工学研究系 准教授)	ノパワーエレクトロニクス、インバータ、キャパシタ評価
研究職員	杜 赫 [Du He]	(研究職員)	ノパワー半導体、デバイスシミュレーション、信頼性
	GOLLAPUDI Srikanth	(研究職員)	ノ電気電子、デバイスシミュレーション、宇宙線破壊

- # パワーエレクトロニクス
- # パワー半導体
- # 集積化・PowerSoC
- # デジタル化
- # 信頼性・リアルタイムモニタリング

Director | センター長



Please visit our website



安部 征哉 准教授

2005 九州大学大学院システム情報科学府 博士(工学)
2005 九州大学大学院システム情報科学府 学術研究員
2006 九州大学大学院システム情報科学府 助手
2007 九州大学大学院システム情報科学府 助教
2010 公益財団法人 国際東アジア研究センター 上級研究員
2014 九州工業大学生命体工学研究科 准教授
2019 九州工業大学工学研究科 准教授
2022 次世代/パワーエレクトロニクス研究センター センター長

超小型電源が切り開く次世代電力ネットワークシステムの研究開発

回路方式及び冷却部分の改良やSiCやGaNにより25W/ccを超える高密度電源の開発、センサ用集積化電源(パワーSoC 電源)の開発も進めています。



高耐圧ダイヤモンドパワーデバイス構造設計

当センターではp型、n型、ノンドープダイヤモンド薄膜の合成可能な次世代パワー半導体試作装置を導入し、超高耐圧ダイヤモンドパワーデバイスの開発を行っています。



超小型電流センサ・IGBTモジュールの開発

IGBTやパワーMOSFETのボンディングワイヤやモジュール電極端子の隙間に挿入して電流を計測できる、薄さ250ミクロン、幅1.7ミリのフレキシブル電流プローブ、ログスキコイルなどの開発を行っています。



環境エネルギー融合研究センター

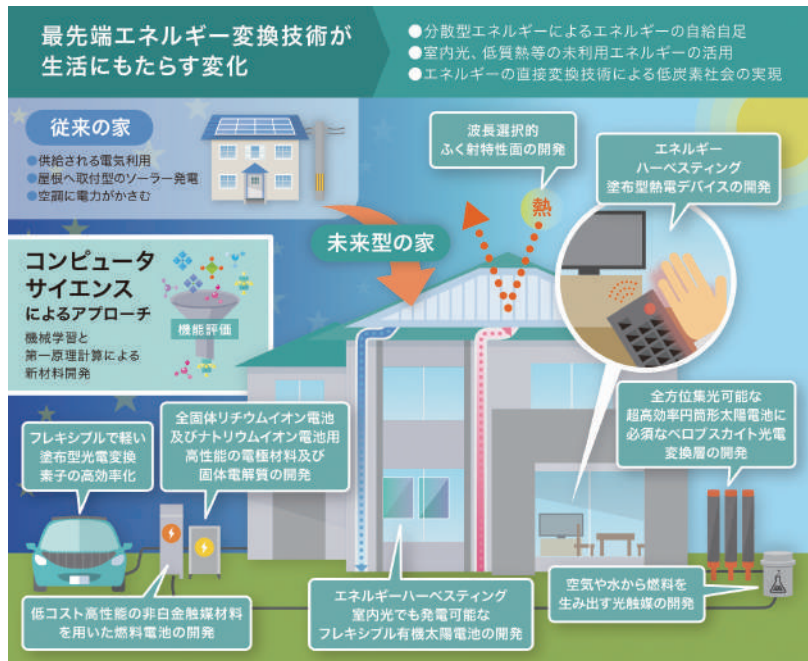


エネルギー変換の新技术を開発し

太陽光エネルギーの有効活用をめざす

About Research | 研究の目的

地球温暖化はエネルギー問題と直結しており、エネルギー変換に関する研究の社会的重要性、緊急性は益々高まっています。本センターは、現在主流である熱エネルギーを力学的エネルギーとし電気エネルギーへ変換する技術に代わる、光-熱-化学-電気エネルギーを相互に変換する新技術の研究に学際的に取り組み、太陽光エネルギーの有効活用を目指す社会の実現に貢献します。



Member | 研究体制

センター長	中戸 晃之	(工・物質工学研究系 教授)	ノ総括ノナノ構造の構築と制御
工学研究院	横野 照尚	(物質工学研究系 教授)	ノ光エネルギー利用物質生成
	宮崎 康次	(機械知能工学研究系 特任教授)	ノ熱エネルギー変換
	松平 和之	(電気電子工学研究系 教授)	ノ強関連電子系の物理科学
	中村 和磨	(基礎科学系 教授)	ノ物性理論計算
	渡邊 政幸	(電気電子工学研究系 教授)	ノ電力系統工学
	矢吹 智英	(機械知能工学研究系 准教授)	ノ熱エネルギー変換
	堀出 朋哉	(物質工学研究系 准教授)	ノ熱 - 電気エネルギー変換
	河野 翔也	(電気電子工学研究系 助教)	ノ物性理論計算
	馬 廷麗	(生体機能応用工学専攻 教授)	ノエネルギー変換材料
	Pandey Shyam S.	(生体機能応用工学専攻 教授)	ノ有機電子材料
生命体工学研究科	村上 直也	(生体機能応用工学専攻 教授)	ノ光機能材料
	飯久 保智	(生体機能応用工学専攻 特任教授)	ノ物性理論計算
情報工学研究院	永松 秀一	(物理情報工学研究系 准教授)	ノナノ構造材料の物性
センター	渡邊 厚介	(環境エネルギー融合研究センター 特任助教)	ノ熱 - 電気エネルギー変換
	三浦 飛鳥	(環境エネルギー融合研究センター 助教)	ノ材料物性測定
	早瀬 修二	(環境エネルギー融合研究センター 客員教授)	ノ光エネルギー利用物質生成
連携機関	森 孝雄	(環境エネルギー融合研究センター 客員教授)	ノ光 - 電気エネルギー変換
	佐山 和弘	(環境エネルギー融合研究センター 客員教授)	ノ熱 - 電気エネルギー変換
	峯元 高志	(環境エネルギー融合研究センター 客員教授)	ノ材料物性測定
	沈 青	(電気通信大学 情報理工学研究科 教授)	ノ量子ドット構造材料物性

- # 半導体
- # エネルギーハーベスティング
- # 直接エネルギー変換

Director | センター長



Please visit our website



中戸 晃之 教授

1989 早稲田大学大学院理工学研究科応用化学専攻修士課程修了
1992 早稲田大学大学院理工学研究科応用化学専攻博士後期課程修了
1992 早稲田大学 博士(工学)
1993 北海道大学 理学部大学院地球環境科学研究科 助手
1999 東京農工大学 農学部大学院生物システム応用科学研究科 助(准)教授
2011 九州工業大学 大学院工学研究科 物質工学研究系 教授
2022 九州工業大学 環境エネルギー融合研究センター センター長

次世代型光触媒技術を実用化! Dr.OHNO

光-物質変換の成果として、株式会社トッパンから次世代光触媒コーティング剤Dr.OHNOが販売されています。



国内のエネルギーセンターと包括連携

宮崎大学 工学部環境・エネルギー工学研究センター、早稲田大学 アンビエントロニクス研究所、電気通信大学 トーワードエネルギー・システム研究センターと協働して、JSTやNEDOが支援する国プロジェクトに参画し、エネルギーの直接変換技術の開発に取組んでいます。



国際的なネットワークを活用

太陽からの膨大な光エネルギーを有効利用する研究を分野横断的なメンバーで、国際的なネットワークも活かして推進します。





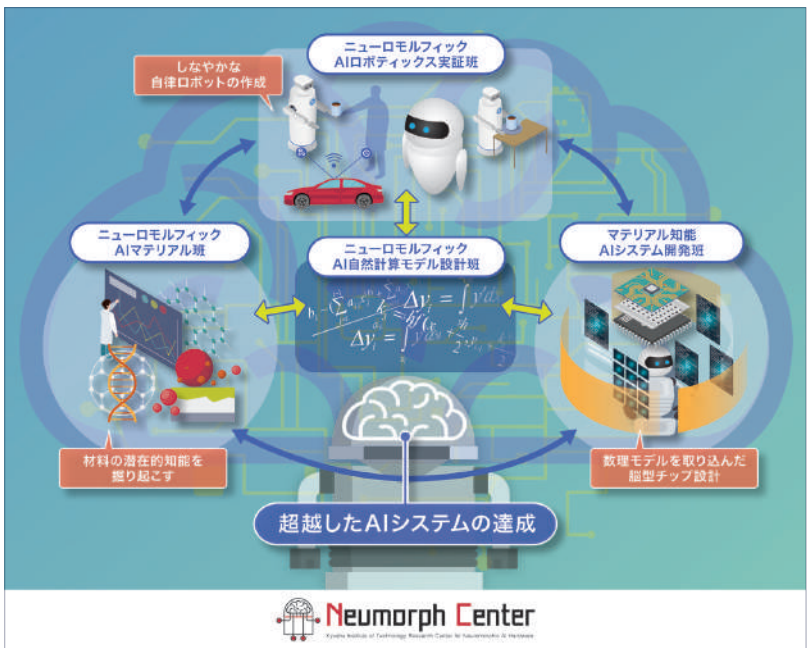
ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター



マテリアルに宿る「知能」と情報工学の融合による次世代AIハードウェアの開発

About Research | 研究の目的

現在の高性能AIシステムは、ソフトウェアベースで構築されており、その高い計算能力の代償として莫大な電力消費量が問題となっています。本センターでは、材料自身が持つ潜在知能を発掘・活用し、高効率・高性能な脳型AIハードウェアを開発します。材料・デバイス・回路・システム・アルゴリズムの各研究分野の研究者が連携し、併せて脳科学の知見を取り込むことで、ハードウェアベースの新しいスタイルのAIシステムへとパラダイムシフトを実現します。



Member | 研究体制

ニューロモルフィックマテリアル			AI 集積回路・システム構築		
センター長	田中 啓文	生・人間知能システム工学専攻 教授	情報工学 研究院	榎田 修一	知的システム工学研究系 教授
情報工学 研究院	小田部 荘司	物理情報工学研究系 教授		徳永 旭将	知能情報工学研究系 准教授
	福岡 康裕	物理情報工学研究系 教授		森江 隆	人間知能システム工学専攻 特任教授
	高林 正典	物理情報工学研究系 准教授	宇佐美 雄生	人間知能システム工学専攻 助教	
工学研究院	堀部 陽一	物質工学研究系 教授	生命体 工学 研究科	安川 真輔	人間知能システム工学専攻 准教授
生命体 工学研究科	サマン・アズハリ	人間知能システム工学専攻 特任研究員(早稲田大学)		田向 権	人間知能システム工学専攻 教授
センター	James K.Gimzewski	ニューロモルフィック AI ハードウェア 研究センター 客員教授(UCLA)		池本 周平	人間知能システム工学専攻 准教授
	ディープ・パナージ	ニューロモルフィック AI ハードウェア 研究センター 博士研究員	鈴木 章央	人間知能システム工学専攻 客員研究員(テクノセント)	
	AI 自然計算・脳アルゴリズム		吉元 裕真	人間知能システム工学専攻 客員研究員(北九州高専)	
生命体 工学 研究科	古川 徹生	人間知能システム工学専攻 教授	野村 修	人間知能システム工学専攻 特任教授	
	石橋 英朗	人間知能システム工学専攻 助教	田中 一路	人間知能システム工学専攻 特任准教授 (上野精機(株))	
	立野 勝巳	人間知能システム工学専攻 准教授	堀 三蔵	人間知能システム工学専攻 研究職員	
	合原 一幸	人間知能システム工学専攻 客員教授(東京大学)	センター	酒井 滋樹	ニューロモルフィック AI ハードウェア 研究センター 客員教授(産業技術総合研究所)
				田中 悠一郎	ニューロモルフィック AI ハードウェア 研究センター 助教

- # 次世代知的デバイス
- # マテリアル知能
- # 自律ロボット融合
- # 集積化・PowerSoC
- # エッジコンピューティング
- # ロボットと暮らし

Director | センター長



Please visit
our
website



田中 啓文 教授

1999 大阪大学大学院 博士(工学)
2003 岡崎国立共同研究機構(2004 自然科学研究機構に改組)、分子科学研究所 分子スケールナノサイエンスセンター 助手(2005年助教に職位変更)
2008 大阪大学 大学院理学研究科 化学専攻 助教
2014 大阪大学 大学院理学研究科 化学専攻 准教授(3月のみ)
2014 九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授
2020 ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター センター長

タイ王国より名誉な賜りもの



2022年7月、田中センター長がタイ王国スラナリー工科大より名誉学位(応用物理学)を頂き、国王名代のシリンドホーン王女より学位記を賜りました。大変名誉なことで、タイ王国と本センターとの交流を強力に推し進めていきたいと考えています。

半導体検査機器

世界シェア

No1メーカー

とタイアップ

上野精機(株)と共同研究講座設置(令和4年4月1日開講)。地元の世界トップシェア企業とAI分野との異分野融合で協働します。

ロボット世界大会優勝

ワールドロボットサミットで優勝(2021年9月)。2021年RoboCup世界大会でHibikino-Musashi@Homeが準優勝+研究賞。



IoTネットワークイノベーション実証研究センター



先進的実証環境を活用した次世代ネットワーク/IoT/AI技術の融合による持続可能な社会の実現

About Research | 研究の目的

「超スマート社会」(Society 5.0)の実現には、サイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への変革、新たな社会を設計し価値創造の源泉となる『知』の創出、新たな社会を支える人材の育成が必要不可欠です。IoTネットワークイノベーション実証研究センターでは、IoTシステム基盤、AI・ソフトコンピューティング、B5G/6Gネットワーク関連の先進的研究と人材育成を推進し、超スマート社会の実現に貢献します。



Member | 研究体制

センター長	池永 全志	(工・電気電子工学研究系 教授)	／全体総括、情報ネットワーク
	塚本 和也	(情・情報・通信工学研究系 教授)	／副センター長、情報ネットワーク
	福本 幸弘	(産学イノベーションセンター 特任教授)	／副センター長、IoTシステム実装
	中藤 良久	(電気電子工学研究系 教授)	／若手育成支援、IoTシステム
工学 研究院	河野 英昭	(電気電子工学研究系 准教授)	／AI、ソフトコンピューティング
	張 力峰	(電気電子工学研究系 教授)	／AI、ソフトコンピューティング
	楊 世淵	(電気電子工学研究系 准教授)	／AI、ソフトコンピューティング
	神谷 亨	(機械知能工学研究系 教授)	／AI、ソフトコンピューティング
	丹上 結乃純	(機械知能工学研究系 教授)	／AI、ソフトコンピューティング
	陸 慧敏	(機械知能工学研究系 准教授)	／AI、ソフトコンピューティング
	大塚 信也	(電気電子工学研究系 教授)	／IoTセンサ、環境エネルギー
	小迫 雅裕	(電気電子工学研究系 准教授)	／IoTセンサ、環境エネルギー
	水町 光徳	(電気電子工学研究系 教授)	／AI、ソフトコンピューティング
	山脇 彰	(電気電子工学研究系 准教授)	／IoTセンサ、プロセッサ
	中司 賢一	(電気電子工学研究系 准教授)	／IoTセンサデバイス
	松嶋 徹	(電気電子工学研究系 准教授)	／IoTシステム実装、EMC
	廣瀬 幸	(電気電子工学研究系 准教授)	／IoTシステム、無線通信
	野林 大起	(電気電子工学研究系 准教授)	／情報ネットワーク
	鶴 正人	(情報・通信工学研究系 教授)	／国際連携、情報ネットワーク
情報工学 研究院	梅田 政信	(情報・通信工学研究系 教授)	／知識ベースシステム
	光来 健一	(情報・通信工学研究系 教授)	／分散システムソフトウェア
	川原 憲治	(情報・通信工学研究系 准教授)	／情報ネットワーク
	柴田 将弘	(情報・通信工学研究系 准教授)	／情報ネットワーク
国際・ 社会連携	Dirceu Cavendish	Insulet Corporation	／国際連携、情報ネットワーク
	桑原 伸夫	九州工業大学・名誉教授	／社会連携、EMC
	近野 泰	(株)野村総合研究所	／社会連携、成果展開

- # IoT
- # Beyond 5G/6G
- # ネットワーク
- # EMC
- # AI/ソフトコンピューティング

Director | センター長



Please visit
our
website



池永 全志 教授

1994 九州工業大学 情報工学研究科修士課程修了
2000 九州工業大学 情報工学部 助手
2003 九州工業大学 博士(情報工学)
2003 九州工業大学 大学院工学研究科 助教
2011 九州工業大学 大学院工学研究科電気電子工学研究系 教授
2012 九州工業大学 ネットワークデザイン研究センター センター長
2022 九州工業大学 IoTネットワークイノベーション実証研究センター センター長

Beyond 5G

国内唯一の
先端通信実証環境を整備
QNetとの共同で整備したローカル5G環境、NICTとの共同で整備した高信頼・高可塑Beyond 5G/IoTテストベッドという国内唯一の先端通信実証環境を整備。

高速 PLC

パナソニック共同研究講座・
北九州市との連携による
パナソニック共同研究講座・北九州市との連携で、国家戦略特区制度を活用した高速PLCの屋外利用に関する規制改革を実現。

海中 IoT

海中・水中IoTにおける
無線通信技術の研究開発
NICT Beyond 5G研究開発促進事業において、「海中・水中IoTにおける無線通信技術の研究開発」を実施中。





社会ロボット具現化センター



ロボット技術を社会に届ける！ ロボットは縁の下の力持ち

About Research | 研究の目的

安心安全で持続可能な社会の実現、少子高齢化対応、第一次産業を始めとした産業基盤の再構築、これらの社会的な課題に対する解決策の一つとして、ロボット技術の社会実装が期待されています。既存技術を発展向上させ新たな技術へ展開し、潜在的な社会的ニーズを発掘し新たなロボット産業を開拓する研究開発拠点を目指して2013年に本センターを設立しました。JST CREST 海洋生物多様性プロジェクト、内閣府地方創生プロジェクト、等を通じて研究開発を進めています。



Member | 研究体制

センター長	石井 和男	(生・人間知能システム工学専攻 教授)	／フィールドロボット
副センター長	林 英治	(情・知的システム工学研究系 教授)	／フィールドロボティクス、AI
センター長補佐	柴田 智広	(生・人間知能システム工学専攻 教授)	／医療介護支援
工学研究院	大屋 勝敬	(機械知能工学研究系 教授)	／制御理論、自動運転
	相良 慎一	(機械知能工学研究系 教授)	／水中ロボット、宇宙ロボット
	永岡 健司	(機械知能工学研究系 准教授)	／宇宙ロボット
情報工学研究院	大竹 博	(知的システム工学研究系 准教授)	／飛行ロボット、ドローン
	藤澤 隆介	(知的システム工学研究系 准教授)	／群ロボット工学
	大橋 健	(基盤センター 教授)	／ヒューマンインターフェイス
生命体工学研究科	JAHNG Doosub James	(人間知能システム工学専攻 教授)	／チーム・コミュニケーション
	我妻 広明	(人間知能システム工学専攻 教授)	／脳型知能、記憶と情動
	安川 真輔	(人間知能システム工学専攻 准教授)	／神経模倣工学、画像センシング
	池本 周平	(人間知能システム工学専攻 准教授)	／ソフトロボティクス
	吉田 香	(人間知能システム工学専攻 准教授)	／感性情報処理、データベース
連携機関	武村 泰範	(西日本工業大学総合システム工学科 准教授)	／AI、ニューラルネットワーク
	園田 隆	(西日本工業大学総合システム工学科 准教授)	／動力学、マニピュレータ
	松尾 貴之	(北九州高専生産デザイン工学科 准教授)	／生物模倣ロボット
	富永 歩	(北九州高専生産デザイン工学科 特任助教)	／フィールドロボット
包括連結協定	山口県産業技術センター		

- # フィールドロボティクス
- # ロボット技術の社会実装
- # 人工知能技術の産業用ロボットへの導入
- # ロボット競技会を通じたロボット開発とアウトリーチ活動

Director | センター長



石井 和男 教授

1996 東京大学工学系研究科 博士課程修了 博士(工学)
1996 東京大学生産技術研究所 研究員
1996 九州工業大学情報工学部 講師
1998 同 助教授
1999 東京大学生産技術研究所 協力研究員(併任、～2018年)
2002 九州工業大学大学院生命体工学研究科 助教授(准教授)
2003 Fraunhofer AIS 客員研究員(～2004年)
2011 九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授(現在に至る)
2018 九州工業大学社会ロボット具現化センター センター長(併任、第1期)
2018 長崎総合科学大学 客員教授(併任)
2022 九州工業大学社会ロボット具現化センター センター長(併任、第2期)

ロボットと人間が共生する社会へ

JST SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラムにおいて、人とシステムの協働を実現する離島海岸清掃共創モデルを構築。

ロボット競技会を主催

トマトロボット競技会、森のドローン・ロボット競技会、水中ロボットフェスティバル等のロボット競技会を運営。研究開発の場を提供するとともに若い世代へのアウトリーチ活動を実施。

世界5カ国

世界各地の大学と連携

水中ロボットに関して英国サウザンプトン大学と連携、農業ロボットに関して伊国サレント大学と連携、移動ロボットの関して米国ニューヨーク市立大学と連携、マレーシアUPMやタイ・キングモンクット工科大学とも連携。



安全・安心な「超スマート社会」に貢献する 高信頼知的集積システム研究センター

About Research | 研究の目的

高信頼知的集積システム研究センターでは、独自のテスト設計手法やセンシング手法を用いて LSI の故障や劣化による不具合を検知することで LSI の信頼性・安全性を向上させることを目的とし、高性能・容易に設計できる次世代デバイスの創出に向けて、個別の高信頼化技術と人工知能技術を用いたシステム LSI/ 機能デバイスにおける世界最先端の高信頼知的 LSI 設計・テスト技術に関する教育研究拠点を構築し、高信頼知的 LSI 技術体系を確立します。



Member | 研究体制

センター長	黒崎 正行	(情・情報・通信工学研究系 教授)	／次世代無線グループ・リーダー
情報工学研究院	梶原 誠司	(情報・通信工学研究系 教授)	／ディエンダブル LSI 設計
	温 暁青	(情報・通信工学研究系 教授)	／低消費電力 LSI テスト
	宮瀬 紘平	(情報・通信工学研究系 准教授)	／LSI 電力解析・動作解析
	Holst Stefan	(情報・通信工学研究系 准教授)	／低消費電力 LSI テスト
	尾知 博	(情報・通信工学研究系 教授)	／次世代無線システムの設計
	長尾 勇平	(情報・通信工学研究系 客員准教授)	／次世代無線システムの設計
センター	中村 和之	(マイクロ化総合技術センター 教授)	／機能メモリ

- # 高信頼LSI
- # 故障診断
- # 次世代無線通信システム
- # AIチップ
- # LSI技術

Director | センター長



黒崎 正行 教授

2003 日本学術振興会 特別研究員(DC)
2005 東京都立大学大学院 工学研究科 電気工学専攻 博士後期課程修了
2005 東京都立大学 博士(工学)
2011 九州工業大学大学院 情報工学研究院 電子情報工学研究系 准教授
2019 九州工業大学大学院 情報工学研究院 情報・通信工学研究系 准教授
2020 高信頼知的集積システム研究センター センター長

3件
ロボット向け無線LAN
国際標準規格への採択

安全・安心な産業用ロボット向け無線LANチップ設計技術の確立、国際標準規格(IEEE無線LAN規格)への採択(IEEE802.11ac、2件とIEEE802.11ax、1件)

LSI
関連実績多数

学生向け国際LSIデザインコンテストの開催、LSIテストセミナーの開催、海外大学とオンラインVirtual labの構築。世界初のLSIテスト時電源ノイズ低減技術、高品質テスト生成技術、LSI劣化検知技術などの開発。

ベンチャー企業設立
4件

次世代デジタル通信システムのシステムデザイン、設計・開発を行っているベンチャー企業など4件のベンチャー企業を設立。





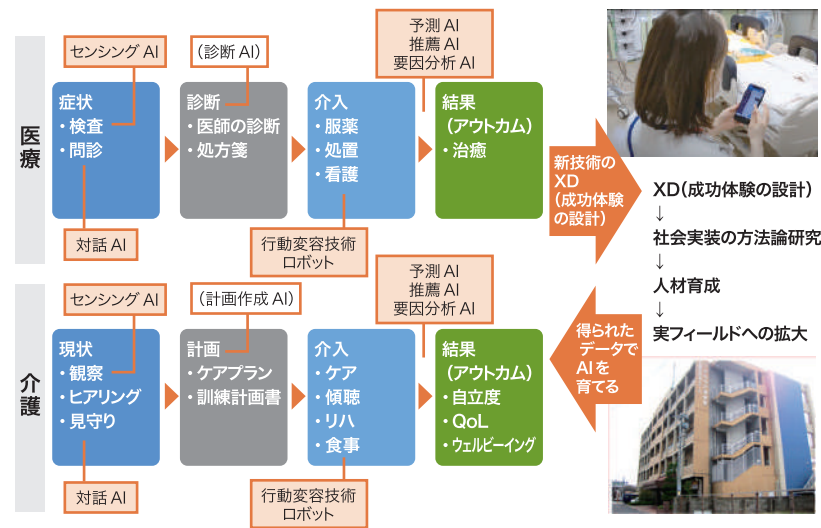
ケア XDX センター



体験デザイン (XD) で、日本のケアをDXする

About Research | 研究の目的

介護・医療の業界において DX は重要ですが、そのために必要なデータサイエンスやAI以前に、IT化が遅れているためデータが集まらず、人材も少ない現状です。ケア XDX センターでは、ケアの DX を、XD (Experience Design: 成功体験のデザイン) として研究し、介護・医療のケア DX の世界随一の研究・学術体系を確立します。すでに広まっている我々のアプリ、ビッグデータ、スマートライフケア共創工房を活用して社会実装、国際活動をしていきます。



Member | 研究体制

センター長	井上 創造	(生・人間知能システム工学専攻 教授)
副センター長	柴田 智広	(生・人間知能システム工学専攻 教授)
DX 研究部門 (Digital Transformation)		
生命体工学研究科	井上 創造	(人間知能システム工学専攻 教授)
	堀尾 恵一	(人間知能システム工学専攻 教授)
	我妻 広明	(人間知能システム工学専攻 教授)
	吉田 香	(人間知能システム工学専攻 准教授)
情報工学研究院	齊藤 剛史	(知能情報工学研究系 教授)
	武村 紀子	(知能情報工学研究系 准教授)
連携機関	中島 直樹	(九州大学病院メディカルインフォメーションセンター 教授)
XD 研究部門 (Experience Design)		
生命体工学研究科	柴田 智広	(人間知能システム工学専攻 教授)
	和田 親宗	(人間知能システム工学専攻 教授)
	池本 周平	(人間知能システム工学専攻 准教授)
工学研究院	水町 光徳	(電気電子工学研究系 教授)
教養研究院	小幡 博基	(人文社会系 教授)
連携機関	白濱 成希	(北九州工業高等専門学校 教授)
スマートライフケア共創工房		
スマートライフケア共創工房は、先端のセンシング設備、大型3Dプリンタやロボットモジュールを備えた、介護・医療の実証実験・共同研究のためのオープンイノベーション拠点です。ひびきのの九州学術研究都市内に整備されています。		

介護 医療 DX (Digital Transformation)

XD (Experience Design)

Director | センター長



Please visit our website



井上 創造 教授

1999 九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学専攻修士課程修了
2002 九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学専攻博士後期課程修了、九州大学 博士(工学)
2002 九州大学システムLSI 研究センター 助手
2002 九州大学大学院システム情報科学研究科 助手
2006 九州大学附属図書館 助教授
2009 九州工業大学 大学院工学研究院 基礎科学研究系 准教授
2018 九州工業大学 大学院生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 准教授
2020 九州工業大学 大学院生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 教授
2022 九州工業大学 ケアXDXセンター センター長

文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」

→IoTによる介護自動記録AIアプリ FonLogを開発。大学発ベンチャー AUTOCAREにライセンス
→40施設以上の介護施設に実用導入され、3つの国立大学病院および1企業に研究に使用

厚生労働省「介護ロボットの開発・実証・普及プラットフォーム」

→スマートライフケア共創工房はリビングラボ機関に登録
→東北大、善光会、SOMPO、産業技術総合研究所、藤田医科大学、国立長寿医療研究センターと連携

JST未来社会創造事業「介護・医療分野における『ケア』天気予報サービスの創出」

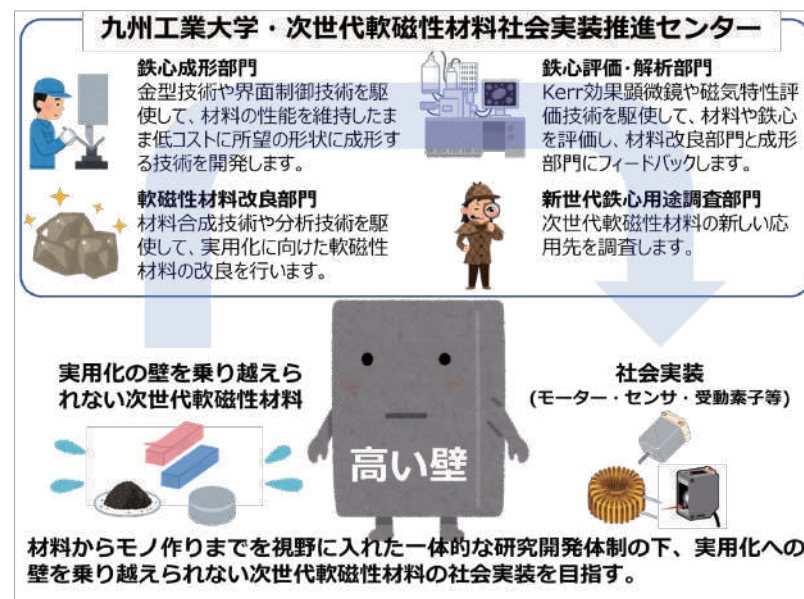
→ケア天気予報という新しいサービスの開発
→大規模プロジェクト型へのステージゲートがあり、採択を目指している



眠っている軟磁性材料をデビューさせる!

About Research | 研究の目的

軟磁性材料とは外部磁場を加えると磁石としての性質を示し、外部磁場を取り除くと磁石としての性質を失う材料です。代表例としては鉄が挙げられます。現在、たくさんの軟磁性材料が開発されておりますが、取り扱いの難しさなどから、いまだ社会実装、すなわち実用化されずに眠ったままの材料が多いのが現状です。本センターはそのような軟磁性材料をデビューさせる後押しをすべく設立しました。実用化を阻む壁となっている種々の技術的障壁を乗り越えて社会実装に到達するための研究を、大学の有する幅広い「知」の活用によって推進し、人材育成、知的財産権の創出、企業との連携など、教育及び産業の振興にも貢献します。



Member | 研究体制

センター長 【軟磁性素材改良部門】	本塚 智	工学研究院 物質工学研究系 准教授	／粉末軟磁性材料
【軟磁性素材改良部門】	石丸 学	工学研究院 物質工学研究系 教授	／透過型電子顕微鏡、ナノ構造解析
	堀部 陽一	工学研究院 物質工学研究系 教授	／透過型電子顕微鏡、ナノ構造解析
	佐藤 尚	名古屋工業大学 工学研究科 物理工学専攻 准教授	／組織解析
【鉄心成形部門】	植原 弘之	情報工学研究院 知的システム工学研究系 教授	／型技術、積層造形法、光造形法
	森 直樹	工学研究院 機械知能工学研究系 教授	／精密加工、プラスチック成型加工
	安藤 義人(アドバイザー)	生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻 准教授	／高分子材料、機能性表面
【鉄心評価・解析部門】	佐々木 巖	生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻 客員教授	／モーター・アクチュエーター用磁性材料
	竹澤 昌晃	工学研究院 電気電子工学研究系 教授	／磁区観察、電力用磁気材料
【新世代鉄心用途調査部門】	小森 望充	工学研究院 電気電子工学研究系 教授	／超伝導、制御工学

軟磁性材料 # 社会実装 # 成形技術

磁気特性評価 # 材料開発

Director | 施設長



Please visit our website



本塚 智 准教授

2006 東北大学 工学研究科 博士前期課程修了
2006 日本ガイシ(株) 施設部 設計1グループ 勤務
2010 岐阜工業高等専門学校 機械工学科 助教
2013 東京工業大学 理工学研究科 材料工学専攻 博士後期課程修了、東京工業大学 博士(工学)
2014 岐阜工業高等専門学校 講師
2015 岐阜工業高等専門学校 准教授
2019 九州工業大学 大学院工学研究院 物質工学研究系 准教授
2022 九州工業大学 次世代軟磁性材料社会実装推進センター センター長

2022年
4月設立!

実用化を阻む壁となっている種々の技術的障壁を乗り越えて社会実装に到達するための研究を、大学の有する幅広い「知」の活用によって推進すべく設立されました。

分野を横断した研究体制で障壁を乗り越える

身近な軟磁性材料の応用例としてはモーター用の鉄心が挙げられます。モーター開発の難しいところは、材料を専門にする研究/技術者と、モーターを専門とする研究/技術者のフィールドが離れている点です。本センターはこの技術的な距離を取り持つ存在になりたいと考えています。

4 社
企業との共同研究契約
現在、民間企業4社と共同研究契約を推進しています。





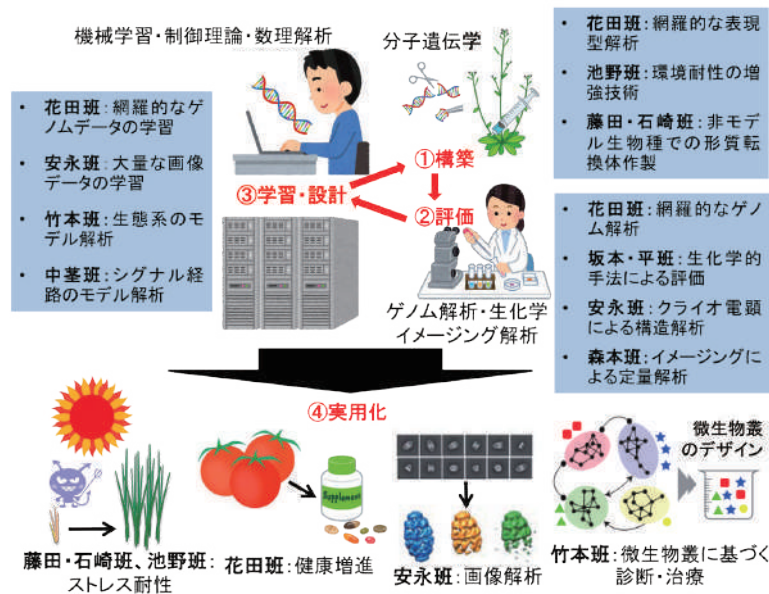
合成生物工学研究センター



情報工学を利用した植物シンセティック バイオロジー（合成生物学）の推進

About Research | 研究の目的

近年の生命科学研究は、生命の部品をひとつずつ理解する要素還元論的アプローチから、生命の部品全体をまとめて理解する俯瞰統合論的アプローチへのパラダイムシフトが起こりつつあります。合成生物学は、俯瞰統合論的アプローチに必須な学問体系です。合成生物学では、生命体を構成する遺伝子や代謝産物などの生命の部品の欠損・過剰発現した形質転換体を構築します。形質転換体の網羅的な分子挙動や多数の画像データを評価し、大量なデータを学習することで、それぞれの部品の機能的な役割を予測します。予測の検証をするために、新たに形質転換体を設計し、形質転換体の再構築・再評価を行います。このように、「構築・評価・学習・設計」を繰り返す合成生物学では、分子生物学・生化学・生物物理学に立脚した情報解析技術が要求されます。当研究連携センターでは、これらの解析技術を向上し、生命システムの制御を理解する方法の開発を目指します。さらに、制御理解を通じて、様々な実用化を目指す研究開発も実施していきます。



Member | 研究体制

センター長	花田 耕介 (情・生命化学情報工学研究系 教授)	／ AIと分子生物学を融合した「評価・学習・設計・構築」
生命体工学研究科	池野 慎也 (生命機能応用工学専攻 准教授)	／ 分子生物的手法によるモデル生物の「構築」
情報工学研究院	坂本 寛 (生命化学情報工学研究系 教授)	／ 生化学的手法による「評価」
	平 順一 (生命化学情報工学研究系 准教授)	／ 生化学的手法による「評価」
	安永 卓生 (物理情報工学研究系 教授)	／ AIと生物物理学を融合した「評価・学習」
	森本 雄祐 (物理情報工学研究系 准教授)	／ 生化学的手法による「評価」
	竹本 和広 (生命化学情報工学研究系 教授)	／ 数値解析による「評価・学習」
連携機関	中基 隆 (知的システム工学研究系 教授)	／ 制御理論を利用し「評価・学習」
	藤田 泰成 (国際農林水産業研究センター・生物資源・利用領域 (九州工業大学 客員教授))	／ 分子生物的手法による非モデル生物の「構築」
	石崎 琢磨 (国際農林水産業研究センター・熱帯・島嶼研究拠点 (九州工業大学 客員准教授))	／ 分子生物的手法による非モデル生物の「構築」

合成生物学 # 組換え生体
デジタルトランスフォーメーション
ビックデータ

Director | センター長



Please visit
our
website



花田 耕介 教授

2000 日本大学農獣医学部獣医学科卒
2003 総合研究大学院大学生命科学研究科遺伝学専攻博士課程修了
2004 シカゴ大学 Research Fellow
2006 ミシガン州立大学 Research Fellow
2007 理化学研究所 研究員
2009 名古屋大学 客員准教授
2012 九州工業大学 若手フロンティア研究アカデミー 准教授
2017 九州工業大学 大学院情報工学研究科 生命情報工学研究系 准教授
2020 九州工業大学 大学院情報工学研究科 生命化学情報工学研究系 教授
2020 植物シンセティックバイオロジー工学研究センター、センター長
2022 合成生物工学研究センター センター長



非常に高い研究力

著名な国際誌への発表、多くの外部資金獲得の実績を誇ります。



合成生物学技術の実用化・ 企業との共同研究

生命システムのデザインを植物で推進することを目指しています。



国際共同研究の推進

国内外の研究機関と協力して、作物種の網羅的データでも、同様な研究を推進していきます。



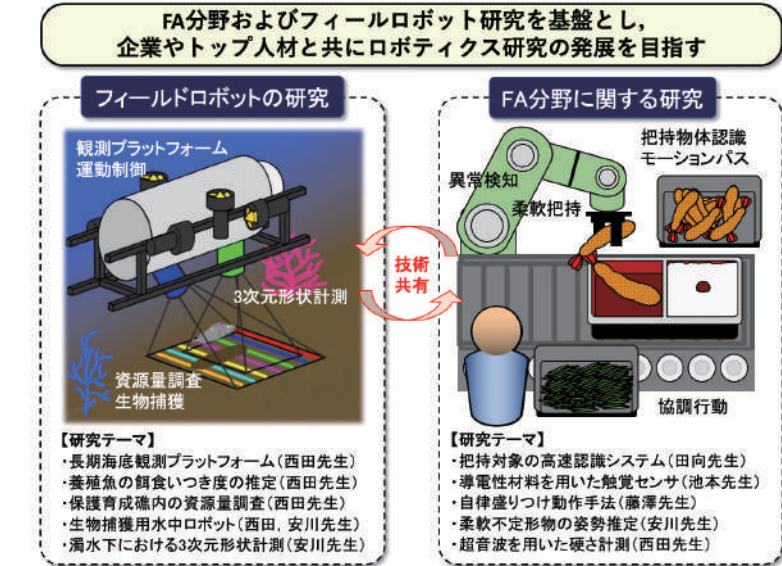
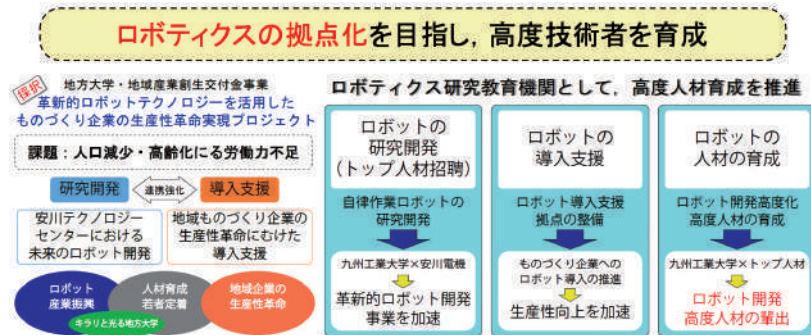
イノベーションロボティクスセンター



FA 分野およびフィールドロボティクスにおける 革新的ロボットテクノロジー

About Research | 研究の目的

人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、活力ある地域社会を実現するにはロボットを導入し不足する労働力を補う必要があります。しかし、民間企業が求めるロボットと大学が開発するロボットとでは視点や求められるものなどが全く異なり、企業と連携することが非常に困難でした。本センターは社会や企業に貢献できるロボティクス技術の確立を目指し、研究教育の体制、カリキュラム、プログラム、さらに、ロボティクス、IoTを融合した基幹的な学府や専攻を企画し、稼げる地域・大学の創出に向けて取り組んでいきます。



Member | 研究体制 ※上記表参照

センター長	西田 祐也 (生・人間知能システム工学専攻 准教授)	／ 知能ロボティクス、海洋工学
生命体工学研究科	田向 権 (人間知能システム工学専攻 教授)	／ 知能ロボティクス、脳型 AI
	安川 真輔 (人間知能システム工学専攻 准教授)	／ 知能ロボティクス、ロボットビジョン
	池本 周平 (人間知能システム工学専攻 准教授)	／ 知能ロボティクス、柔軟ロボット
情報工学研究院	大竹 博 (知的システム工学研究系 准教授)	／ 飛行ロボット・知的制御
	藤澤 隆介 (知的システム工学研究系 准教授)	／ 知能ロボティクス、群ロボット

FAロボット # フィールドロボット
生産性向上 # グローバル人材育成

Director | センター長



Please visit
our
website



西田 祐也 准教授

2008 九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻博士前期課程 修了
2011 九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻博士後期課程 修了 博士(工学)取得
2011 九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻研究職員
2012 東京大学生産技術研究所 特任研究員
2015 九州工業大学若手研究者フロンティア研究アカデミー 特任助教
2019 九州工業大学大学院生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 准教授
2020 九州工業大学 イノベーションロボティクスセンター センター長

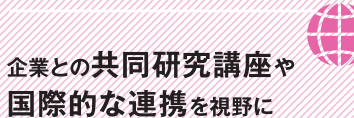
RaaS について学べる RSMコースを設立

2021年度からRaaSについて学ぶことができる全学府のRSMコースを設立し、運営しています。



カーボAI連携大学院で 総合実習を受け持つ

学研都市の連携大学院の一つであるカーボAI連携大学院の総合実習の一つを受け持つっており、教育に力を入れています。



企業との共同研究講座や 国際的な連携を視野に

大手ゼネコン企業と連携し、建設ロボットの施工自動化に関する研究の共同研究講座を開くことを計画している他、海外連携研究者が所属しているチューリッヒ大学とETHとの共同指導による研究およびMOU締結についても協議を進めています。





グリーンマテリアル研究センター



環境調和型カーボンリサイクル集積と 地域社会との連携

About Research | 研究の目的

地球温暖化問題の主たる原因である二酸化炭素の排出を抑制する「低炭素社会」を構築し、持続可能な社会を創生することは今や世界的な喫緊の課題です。本センターでは、本学および国内外研究機関の研究者らの叡智を結集し、CO₂を抑制するだけでなく資源の一つとして循環させる低炭素社会実現を目指すための分野横断的な研究を展開します。さらに、社会実装に向けた評価や将来的な分野拡大を念頭に社会経済研究者が参画し、低炭素社会の将来を見据えバックキャスト的な技術開発を進め社会実装に近づけていきます。



Member | 研究体制

センター長 安藤 義人 (生・生体機能応用工学専攻 准教授) / 総括 / 木質バイオマスの材料化技術開発		
生命体工学研究科	宮崎 敏樹 (生体機能応用工学専攻 教授) / 医用材料視点の材料開発・評価	
	前田 憲成 (生体機能応用工学専攻 教授) / 生物学視点の材料開発と環境負荷評価	
	村上 直也 (生体機能応用工学専攻 教授) / 触媒活性・反応挙動の分析	
	中村 仁 (生体機能応用工学専攻 准教授) / 機能性無機材料の開発	
工学研究院	城崎 由紀 (物質工学研究系 准教授) / 海洋バイオマスの材料化	
	坪田 敏樹 (物質工学研究系 准教授) / 炭化材料の機能化	
	吉田 嘉晃 (物質工学研究系 准教授) / CO ₂ 固定化材料の開発	
	飯久保 智 (九州大学 教授) / ケモインフォマティクスによる構造設計・評価	
連携研究者	山崎 亮太 (九州歯科大学 助教) / 微生物燃料電池・マイクロプラスチック分解・抗菌評価	
	牛房 義明 (北九州市立大学 教授) / 環境経済学・エネルギー経済学の見地から社会考証	
	Hidayah Arifin (マレーシア フトラ大学 教授) / 木質バイオマスとの複合材料開発	
	Supakorn Boonyuen (タイ タマサート大学 准教授) / 木質バイオマスの機能材料化	

#カーボンニュートラル

#カーボンクローズドシステム

#環境共生材料

#バイオマス

#光合成

#循環型材料

Director | センター長



Please visit
our
website



安藤 義人 准教授

2002 宮崎大学 博士(工学)
2002 近畿大学分子工学研究所 博士研究員
2007 近畿大学分子工学研究所 助教
2010 九州工業大学 エコタウン実証研究センター 准教授
2015 マレーシア・サテライトキャンパスMSSC 副オフィス長
2017 イノベーション推進機構 (現産学イノベーションセンター) 准教授
2020 MSSCオフィス長、グリーンマテリアル研究センターのセンター長を兼務

2021年 **15件以上**

豊富な企業との連携実績

企業との共同研究実績および学術相談多数。(2021年の相談件数は15件以上)

2019年 **5件**
2020年 **6件**

特許出願件数

社会実装に向けた取り組みを推進。多数の特許出願実績。



国際連携の実績多数

JASSOプログラム、さくらサイエンスプログラム、二国間交流事業など多数実施。
(関連国: マレーシア、インドネシア、タイ、台湾、トルコ、中国、イタリア、ポルトガル、ギリシャなど)

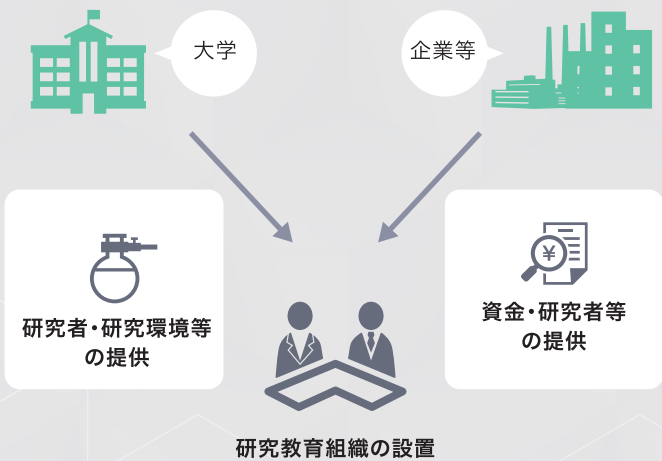
OTHER KYUTECH RESEARCH

九州工業大学の共同研究講座等の紹介

共同研究講座・共同研究部門

共同研究講座・共同研究部門(以下「共同研究講座等」という。)制度は、企業等から共同研究費として資金をご提供いただき、大学内に設置する研究組織です。研究組織として置く点が大きな特徴であり、資金提供企業等から資金のほかに研究者を受け入れ、本学の教員と対等の立場で共同して研究を行うことで、安定した研究基盤を構築します。また、一定期間継続的に共同して研究を行うことにより、優れた研究成果の創出と新たな研究展開が期待できます。講座名には企業等が明らかにする名称を付けることも可能です。

	期間 原則3年以上5年以下(更新可能)
	発明の取扱い 共同研究契約に基づき、貢献度等に応じて決定します。
	税制上の優遇措置 ■特別試験研究費税額控除制度 企業等が大学と共同研究を行った場合、企業等が支出した試験研究の一定割合が、法人税(所得税)から控除されます。
	納入いただく経費 ①直接経費: 企業等の研究者を出向等の扱いにより、本学の専任教員(共同研究講座等教員)として1名以上より構成されます。(クロスアポイント制度の利用も可能です。)その他、必要となる経費は教育研究内容により異なります。※ ②間接経費: 原則として直接経費の30%



申請書類

- ①共同研究講座等設置申込書
 - ②共同研究講座等の概要 ③履歴書
- <https://www.kyutech.ac.jp/research/download.html>



問合せ

研究企画課産学連携係
TEL 093-884-3085
✉ ken-sangaku@jimu.kyutech.ac.jp

共同研究講座等の設置状況

現在、以下の講座を設置しています。

共同研究講座

(2023年1月現在)

講座名称	受入部局	設置期間
SUMCO共同研究講座	生命体工学研究科	2017.7~2023.6 (6年間)
IoTシステム実装研究講座(九州工業大学・パナソニック共同研究講座)	工学研究院	2017.11~2024.3 (6年5ヵ月)
プラントライフサイクルエンジニアリング(PLE-TAKADA) 講座	生命体工学研究科	2018.4~2024.3 (6年間)
デンソー生産準備IoT 共同研究講座	情報工学研究院	2018.10~2023.3 (4年6ヵ月)
上野精機次世代先端技術共同研究講座	生命体工学研究科	2022.04~2025.3 (3年間)
GX材料デバイス研究講座(九州工業大学・パナソニック インダストリー共同研究講座)	工学研究院	2023.01~2026.3 (3年3ヶ月)



ABOUT KYUTECH RESEARCH

九州工業大学の産学連携制度

共同研究

「共同研究」とは？

企業等の研究者と大学の教員が、共通の研究課題について対等の立場で取り組むことにより、優れた研究成果の創出を促進する制度です。企業等と大学が、相互に研究者、研究費、研究設備等を出し合うので、大学の人的資源や研究開発能力を有効に活用できます。研究の形態により、右の2パターンに分けられます。

期間
研究内容に応じて柔軟に対応することが可能です。

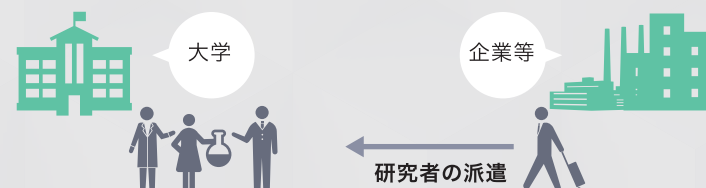
発明の取扱い
共同研究契約に基づき、貢献度等に応じて決定します。

税制上の優遇措置
■特別試験研究費税額控除制度
企業等が大学と共同研究を行った場合、企業等が支出した試験研究の一定割合が、法人税（所得税）から控除されます。

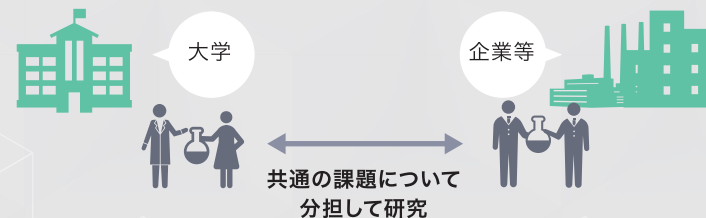
納入いただく経費
①直接経費（研究費）
②研究料※1：月額35,000円
③間接経費は原則として直接経費の30%

※1：民間等共同研究員（企業に所属し、共同研究のために企業等に在職のまま大学に派遣される人）を受け入れるための経費

01 大学において企業等から研究者を受け入れ、共通の課題について研究を行う共同研究



02 企業等及び大学において、共通の課題について分担して研究を行う共同研究



申請書類 共同研究申込書
<https://www.kyutech.ac.jp/research/download.html>
問合せ 研究企画課産学連携係
TEL 093-884-3085 E-mail ken-sangaku@jimu.kyutech.ac.jp

受託研究

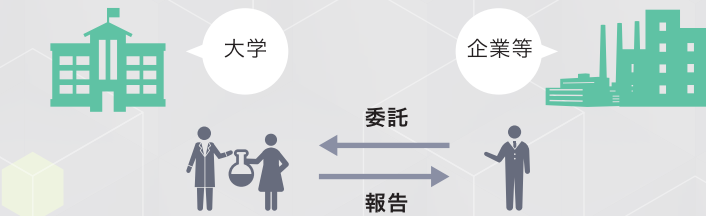
「受託研究」とは？

大学が企業等から委託を受けて研究を行い、その研究成果を委託者に報告する制度です。

発明の取扱い
■原則大学に帰属：特許などの実施については、独占実施権等の設定等、委託者のご要望を踏まえ、個別の相談に応じ、柔軟に対応します。

税制上の優遇措置
■特別試験研究費税額控除制度
企業等が大学と共同研究を行った場合、企業等が支出した試験研究の一定割合が、法人税（所得税）から控除されます。

納入いただく経費
①直接経費（研究費）②間接経費は原則として直接経費の30%



申請書類 受託研究申込書
<https://www.kyutech.ac.jp/research/download.html>
問合せ 研究企画課産学連携係
TEL 093-884-3017 E-mail ken-sangaku@jimu.kyutech.ac.jp

学術コンサルティング

「学術コンサルティング」とは？

企業等からの依頼を受け、大学の研究者が専門的知識に基づき指導助言を行い、依頼者の業務や活動を支援する制度です。共同研究契約等では実施困難であった研究にはあたらな技術指導や学術コンサルティング等について、従来の兼業のように勤務時間外ではなく、大学の本務として勤務時間に実施するものです。実施場所は学内・学外いずれも可能です。少額、短時間での対応も容易となり、学術コンサルティングから共同研究に移行することも期待されます。

※2：コンサルティング料は委託者と協議のうえ、定める額とし、コンサル時間には依頼者との対面による時間のほか、電子メールでの連絡に要する時間や依頼者との打ち合わせ時間、準備等、実施に必須な時間が含まれます。

発明の取扱い
■原則大学に帰属

納入いただく経費
①コンサルティング料※2
②間接経費は原則として直接経費の30%

申請書類 学術コンサルティング申込書
<https://www.kyutech.ac.jp/research/download.html>
問合せ 研究企画課産学連携係
TEL 093-884-3017 E-mail ken-sangaku@jimu.kyutech.ac.jp

寄附金

「寄附金」とは？

企業等や個人篤志家等から本学に寄附していただき、学術研究や奨学を目的とした資金を受け入れる制度です。寄附金による研究成果は、直接寄附していただいた方に還元されるものではありませんが、本学の研究水準を押し上げるものであり、ひいては社会に還元されるものです。

発明の取扱い
■原則大学に帰属

ご寄附いただく経費
■下限・上限はございません。

税制上の優遇措置
国立大学法人に対する寄附となりますので、法人税法、所得税法、個人住民税による税制上の優遇措置があります。

申請書類 寄附金申込書
<https://www.kyutech.ac.jp/research/download.html>
問合せ 研究企画課研究支援係
TEL 093-884-3016 E-mail ken-shien@jimu.kyutech.ac.jp

研究・コンサルティング実施までのフロー 産学連携の手続きは基本的に以下のフローで実施されます。

